

平成26年度 福井県立ろう学校 学校関係者評価書

<p>(問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価書の成果と課題が適切か。 ・成果と課題を踏まえた今後の改善策、向上策が適切か。 ・その他
<p>(意見を伺った方)</p> <p style="text-align: center;">福井県聴覚障がい者協会（2名） ろう学校PTA会長（1名）・PTA副会長（3名）</p>
<p>(意見欄)</p> <p><教育課程・学習指導></p> <p>Q：授業アンケートにある「楽しかったか」「わかったか」という質問は、生徒によって捉え方が様々だと思うがどのように考えているのか？</p> <p>A：このアンケートは、「わかる・できる」授業作りに向けて、県立高校の「授業わかる度調査」で使われている「楽しい」「わかる」という言葉を用いて、生徒の授業に対する意識調査を目的に実施した。「授業の雰囲気楽しい」から「学習内容が理解できて楽しい」まで捉え方は様々だと思うが、「わかる・できる」授業作りは、授業に興味関心を持つことから始まる。そのためには、まず生徒が授業をどう思っているか実態を把握した上で、授業改善に取り組むことが大切である。</p> <p>：アンケートでは各教科の「わかる」「楽しい」の割合が把握でき、生徒の実態がわかった。生徒一人一人の実態について学部の教員で共通理解を持ち、教科担当者が一人一人に応じた授業改善を行うことが重要である。また、学習進度別のクラスに分けているため、「学習は理解できるが、少人数のため楽しくない」「友達と一緒に学習したい」などと感じている生徒もいる。教科の枠を取り払い、生徒にかかわる全教員が連携を取って、生徒の実態や学力、悩みなどを把握することも必要である。</p> <p>O：授業アンケートの結果で「わかる」が多いからといって現状で満足せずに、常に意欲的に学習に取り組めるような授業作りをしてほしい。</p> <p>O：授業アンケート結果を分析し、教科指導における教員の手話力や授業力の向上をお願いしたい。</p> <hr/> <p><生徒指導></p> <p>Q：学校で不審者対応訓練はしているか？自分の身を守る、助けを求めるためにどう対処すればよいか教えてほしい。</p> <p>A：行っている。警察署の方から護身術、大声をあげて逃げることなどを教えてもらっている。</p> <p>O：学校や家でなく、外出先で何かあった時にどう対応すれば良いかを指導してほしい。文章で説明するだけでなく、手順を図式化したり、やりとりの例文を載せたりして児童生徒が理解しやすいような対応策マニュアルを作成してほしい。市町によって緊急時の対応が様々であることも知らせてほしい。</p> <p>A：市町で作成している防災マニュアルを参考に、校外での危機発生時に対応するための図式化した分かりやすいマニュアルを作成し、訓練を実施していきたい。</p> <hr/> <p><進路指導></p> <p>O：卒業生の進路先は、昨年に引き続き大手企業などすばらしい結果である。これまでも発達障害を併せ有する生徒など多様な生徒への就職支援を行ってもらっているが、更に職場実習先や就職先の開拓をお願いしたい。</p> <p>A：全生徒が納得できる所に就職できるよう、今後も進路先を開拓し、就職支援を行っていきたい。</p> <p>Q：就職後の卒業生へのサポートやバックアップはどのように行っているのか。</p> <p>A：卒業後5年間は会社を訪問し、様子を伺い対応している。また、体育大会や文化祭などで卒業生の状況を聞いたり確認したりして、把握に努めている。</p> <p>Q：県外に進学・就職した生徒については、どうか。</p> <p>A：直接本人からの相談はなくても、他の卒業生からの情報で把握することや、同窓会入会式の時に、県外の聴覚障害者センターなど相談できる施設の紹介も行っている。教育支援部では、全卒業生に対してメールやFAXで補聴相談案内を行い、県外へ行っても、帰省した際に相談を受けられるようにしている。</p>

<保健管理> 以下の報告について、特にご意見なし

- ・幼児児童生徒の健康状態を、保護者、教職員とも十分把握しており、健康診断の結果を受けての受診についても目標数値を達成することができた。
- ・児童生徒自らが健康状態の管理をすることについては、自分で判断したり、教員に相談したりすることができている。目標指数と判断基準を検討したい。
- ・清掃に関しては、習慣化している。今後も清掃のやり方について具体的に指導を継続していく。

<センター的機能>

Q：センター的機能の中の啓発活動で、聴覚障害についての理解授業はインテグレートした児童生徒、難聴の児童生徒が在籍する学校で行っているのか、それとも在籍者の有無に関係なく、要望があれば行っているのか。

A：難聴の児童生徒が在籍する学級・学校だけでなく、通常の学級・学校でも行っている。難聴のお子さんがある学校の場合は、本人と保護者に理解授業の内容を相談してから実施している。

O：聴覚障がい者協会主催の一般向けの手話講座の中で「聴覚障害の基礎知識」の内容は、一般的に難聴や手話についての説明をしているが、その説明を難聴に限らず、中途失聴や人工内耳までの内容にするため、学校が持っている情報や資料などを共有させてほしい。

A：可能である。実施していきたい。

<研究・情報> 以下の報告について、特にご意見なし

- ・今年度はバーコードによる図書貸出返却システムの開始やより良い読書環境作りを工夫した。中高等部生徒の読書を促す手立てを検討していく。
- ・ろう教育専門研修については、専門性や授業力の向上におおむね有効であった。次年度も教員の学ぶ意欲の向上のみでなく、学校全体の教育力の向上につながる学びの場作りをいっそう努める。
- ・C A I 学習装置が新しく整備されたので、利用方法・活用推進に関する研修等を実施し、教職員が視聴覚機器を有効に活用できる環境の構築に努める。

<寄宿舎指導>

（「ほめほめノート」の活用は、子どもの自己肯定感を高め、互いの良さを認め合う仲間作りに役立っているという報告に対して）

Q：「ほめほめノート」への記入量は、個人で差が付かないか？

A：寄宿舎指導員や教員も記入し、極端に個人差が出ないように配慮している。

Q：入舎生だけ？

A：入舎していない児童生徒に対しては、頑張ったことや良い行いについて直接こまめに声かけをしている。

O：寄宿舎での生活を通して、いろいろなことができるようになって、自立したと感じることがたくさんある。あらためて寄宿舎の良さを実感した。

O：体験入舎など、寄宿舎をもっと気軽に積極的に利用できるとよい。

<全 体>

- ・卒業生が大手企業に就職するなど進路希望を 100%実現できたことはすばらしい。
- ・聴覚障がい当事者としてろう学校を見学して、一人一人の能力や実態に合わせた授業ができていると感じた。しかし、教師の視覚的表現がまだ足りないようにも感じた。
- ・引き続き、授業改善や授業力の向上をお願いしたい。

◎学校関係者評価を踏まえた今後について

- ・聴覚障害をもつ当事者ならではの貴重な御意見や御指導、保護者の方々の御意見を真摯に受け止め、次年度の重点目標や具体的取組に生かしていきたい。
- ・「わかる・できる・楽しい」授業作りを目指した授業改善や手話力の向上を図っていきたい。
- ・校外での危機発生時に身を守るためのマニュアルの図式化や訓練を実施したい。
- ・障害を併せ有する児童生徒の進路指導について、関係機関等と更に連携を深め、進路目標の実現を目指したい。